

この取扱説明書は再生紙を使用しています。



本社・営業本部	〒103 中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8121
東京支店	〒103 中央区日本橋箱崎町6-6	TEL(03)3669-8118
札幌店	〒060 札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)261-7141
仙台店	〒983 仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)236-4121
名古屋支店	〒461 名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8531
大阪支店	〒553 大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)444-2031
広島支店	〒733 広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6331
福岡支店	〒812 福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)411-5416
盛岡営業所	〒020 盛岡市仙北町下野18-1	TEL(019)635-5575
都宮営業所	〒321 宇都宮市藤瀬町字樓内2313	TEL(0286)36-3012
宇都宮営業所	〒277 宇都宮市若柴297-12	TEL(0471)32-1500
多摩営業所	〒187 小平市小川町2-1253	TEL(0423)44-6268
川崎営業所	〒213 川崎市高津区久地597-1セブンエース久地1F	TEL(044)844-4700
松戸営業所	〒433 浜松市高丘町150-1	TEL(053)439-3300
岐阜営業所	〒501-61 羽島郡岐南町徳田4-274	TEL(058)276-6551
岐阜営業所	〒596 岸和田市土生町2-30-39	TEL(0724)36-2211
神戸営業所	〒658 神戸市東灘区田中町3-3-3	TEL(078)412-6220
北九州営業所	〒802 北九州市小倉北区三期丸3-6-20久野ビル1F	TEL(093)931-3733
南九州営業所	〒891-01 鹿児島市東谷山6-17-7	TEL(099)269-5347
新潟マックス	〒955 三条市東裏館2-14-28	TEL(0256)34-2112
水戸マックス	〒310 水戸市松ヶ丘2-3-27	TEL(029)255-3761
群馬マックス	〒379-22 佐渡郡赤堀町大字今井543-2	TEL(0270)62-1123
埼玉マックス	〒331 大宮市日進町3-421	TEL(048)651-5341
千葉マックス	〒284 四街道市大日1870-1	TEL(043)422-7400
横浜マックス	〒241 横浜市旭区さちが丘7-6	TEL(045)364-5661
長野マックス	〒390 松本市菅部1-6-25	TEL(0263)26-4377
長野営業所	〒381-22 長野市青木島1-35-1	TEL(0262)85-6740
静岡マックス	〒422 静岡市敷地1-3-26	TEL(054)237-6116
金沢マックス	〒921 金沢市森戸2-15	TEL(0762)40-1871
富山営業所	〒930 富山市上飯野字樋向10-8	TEL(0764)52-0182
福井営業所	〒910 福井市和田東2-1711	TEL(0776)27-3378
京滋マックス	〒612 京都市伏見区竹田段ノ川原町9	TEL(075)645-5061
兵庫マックス	〒673-04 三木市大村高柳109-1	TEL(07948)3-2121
岡山マックス	〒700 岡山市野田3-32-28	TEL(086)246-9516
四国マックス	〒761 高松市上天神町761-3	TEL(0878)66-5599
徳島営業所	〒770 徳島市末広1-4-25	TEL(0886)23-0286
松山営業所	〒790 松山市天山町28-1	TEL(089)913-0608
マックスサービス本	〒330 埼玉県大宮市宮原町2-99-5	TEL(048)667-6448
マックスサービス大	〒553 大阪市福島区玉川1-3-18	TEL(06)446-0815
マックスサービス名	〒461 名古屋市東区徳川1-11-23	TEL(052)935-8210
マックスサービス福	〒812 福岡市博多区上牟田1-5-1	TEL(092)451-6430
マックスサービス廣	〒733 広島市西区南観音7-11-24	TEL(082)291-6700
マックスサービス仙	〒983 仙台市若林区卸町東2-1-29	TEL(022)237-0778
マックスサービス札	〒060 札幌市中央区大通東6-12-8	TEL(011)231-6487

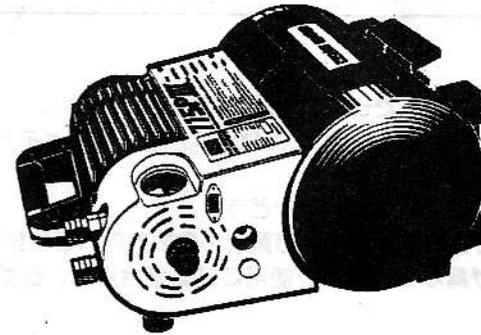
●マックスお客様ご相談ダイヤル(無料) 0120-22-8358  
月～金曜日 午前9時～午後6時

●住所、電話番号などは都合により変更になる場合があります。

G0406

# マックスエアコンプレッサ AK-415PⅢ5《6》 AK-615PⅢ5《6》 AK-715PⅢ5《6》

## 取扱説明書



### 警告

- 使用前に必ず取扱説明書を読む。
- 本機の設置場所は硬く水平な所とする。不安定な場所では絶対に使用しない。
- 揮発性可燃物(ガソリン、シンナー等)のある場所では絶対に作動させない。
- 感電事故防止の為、アースクリップを必ず接地(アース)する。
- 雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。
- 高温や直射日光が当たる場所で絶対に使用しない。
- 異常を感じたら絶対に使用しない。
- 本機にエアホースを接続する前に必ずホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。
- 移動時・作業終了時は必ず電源スイッチを切り、ドレンコックをゆるめ、エアタンク内のドレンと圧縮空気を排出する。
- 改造及び衝撃を絶対に加えない。

- この取扱説明書は常時内容が確認できるよう保管してください。
- 本機の仕様は機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

**MAX**®

このたびはマックスエアコンプレッサをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。本機の取扱いにあたって、この取扱説明書を最後までよくお読みください。使用上の注意事項、使用方法、能力などについて十分ご理解の上、安全に適切にご使用くださるようお願いいたします。

- ⚠ **警告**：この表示は、取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合を表しています。
- ⚠ **注意**：この表示は取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合を表しています。
- また、取扱いを誤った場合には、コンプレッサ本来の性能を発揮しないばかりでなく本機の損傷につながる事が想定される場合を表しています。

### 現品の確認

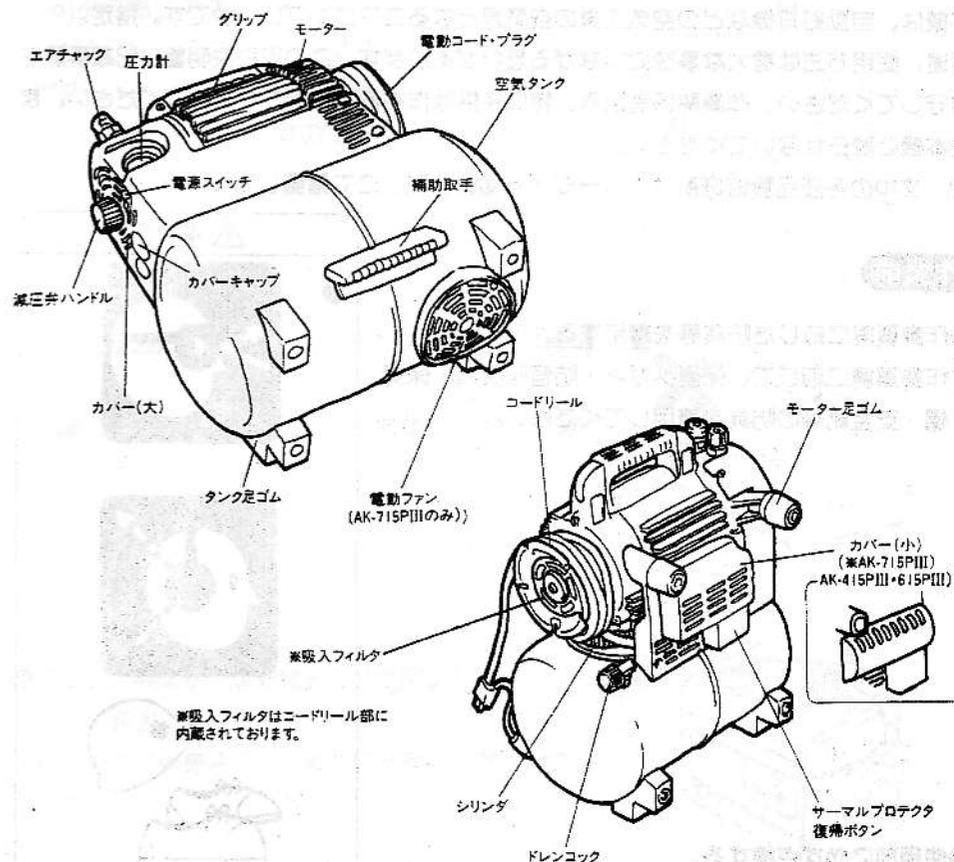
- コンプレッサが到着しましたら次の確認を行ってください。
- ご注文の製品かどうか。(50Hz用、60Hz用はパッケージとネームプレートに明記してあります。)
- 輸送による破損や部品の紛失がないかどうか。
- ※上記の点で不都合がありましたら、お買求めの販売店へご相談ください。
- ※使用電源の周波数が異なる地域でご使用になる場合には、必ず販売店へご相談ください。

## 目次

1. 各部の名称	1
2. 安全作業のために	2
3. 安全装置について	11
4. 仕様	12
5. 使用方法	14
6. サーマルプロテクタについて	17
7. 運転中の異常	19
8. その他の留意点	20
9. 補助タンクの接続方法	21
10. 性能を維持するために	23

全国販売拠点、サービス拠点一覧

## 1 各部の名称



### 主要部品機能説明

- ① **圧力計**  
使用圧力を確認します。
- ② **減圧弁調整ハンドル**  
適正な使用圧力に調整します。
- ③ **電源スイッチ**  
電源の入・切 (ON・OFF) をします。
- ④ **ドレンコック**  
一日一回以上作業終了後に圧縮空気とドレン (水など) を抜きます。

## 警告 安全作業のために

本機は、自動釘打機などの空気工具の空気源となるエアコンプレッサです。指定以外の用途、使用方法是重大な事故につながる恐れがあります。この取扱説明書の記載事項を厳守してください。作業関係者以外、特に子供は作業場所に近づけないでください。また本機に触らせないでください。

㊦ 文中の各部品設置箇所は1ページ「各部の名称」にて確認してください。

### 作業前

#### ① 作業環境に応じた防具等を着用する。

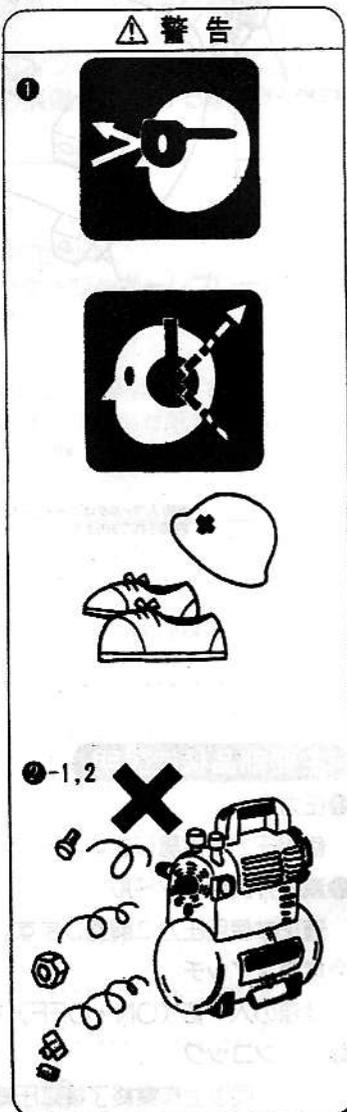
作業環境に応じて、保護メガネ・防音保護具・保安帽・安全靴等の防具を着用してください。

#### ② 使用前に必ず点検する。

電源プラグを、コンセントに接続する前に次の点検を必ず行ってください。

1. ボルト・ナットやネジの締め付けが緩んでいたり、抜けていないか。
2. 各部品が外れていたり傷んでいないか。
3. 電源プラグ・コードに異常がないか。
4. サーマルプロテクタ復帰ボタンを外側から固定していないか。

不完全なまま使うと事故や破損の原因となります。異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービスへ点検・修理に出してください。



## 警告 安全作業のために

#### ③ 必ず指定電圧で使用する。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。指定電圧以外の使用は故障の原因だけでなく、発火・発熱の危険性がありますので絶対にしないでください。

#### ④ 本機の電源に昇圧機などのトランス類は絶対に使用しない。

故障の原因や焼損の原因になりますので絶対にしないでください。

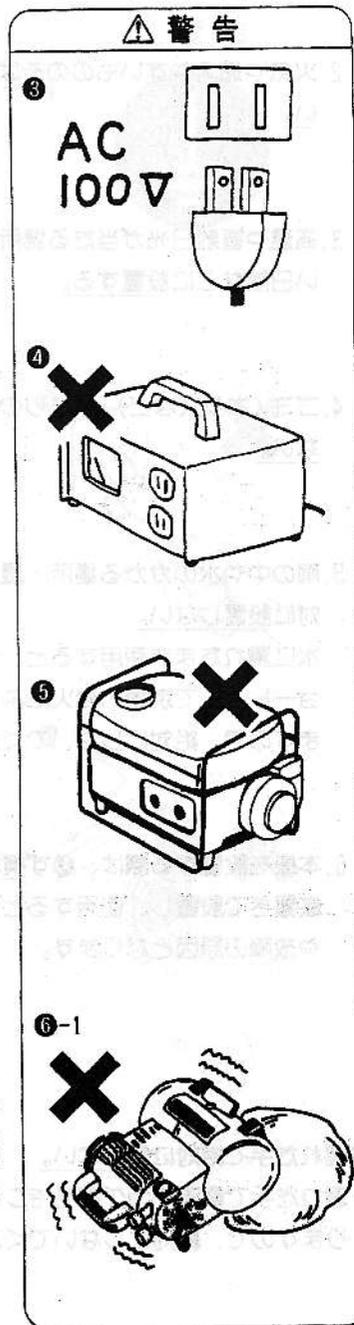
#### ⑤ エンジン発電機や直流電源では使用しない。

故障の原因や焼損の原因になります。詳しくは、お買い求めの販売店又は、弊社担当者にお問い合わせください。

#### ⑥ 本機の設置場所に関する注意

##### 1. 硬く水平な場所に必ず設置する。

不安定な場所には絶対に設置しない。移動や落下の危険性のある場所には絶対に設置しないでください。



⚠ 警告  
安全作業のために

2. 火気や燃えやすいもののそばには絶対に設置しない。

3. 高温や直射日光が当たる場所は避け、風通しのよい日陰などに設置する。

4. ゴミ(木クズなど)・ホコリの多い場所には設置しない。

5. 雨の中や水のかかる場所・湿気の多い場所には絶対に設置しない。

水に濡れたまま使用すると、感電したり短絡(ショート)して焼損・発火による火災の恐れがありますので、絶対にしないでください。

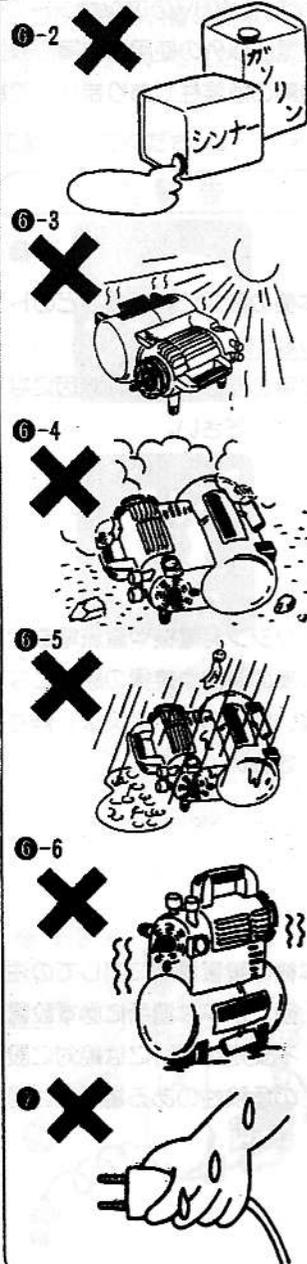
6. 本機を設置する際は、必ず横置にする。

縦置きで設置し、使用すると転倒・破損等の事故や故障の原因となります。

⑦ 濡れた手で絶対に触れない。

濡れた手で電源プラグ等を持つと感電する恐れがありますので、絶対にしないでください。

⚠ 警告



⚠ 警告  
安全作業のために

⑧ 感電事故防止の為、アースクリップを必ず接地(アース)する。

アース線をガス管等に取り付けることは危険ですので、絶対に接続しないでください。

※アースの埋め込みやアース線を接続するような工事は電気工事士の資格が必要です。最寄りの電気工事店にご相談してください。また接地と共に漏電しゃ断器の設置された電源に接続されることをおすすめします。

⑨ 電源コードは大切に扱う。

電源コードを引っ張って本機を移動させたり、電源コードを引っ張ってコンセントから電源プラグを引き抜いたりすると、電源コードを傷め、断線・短絡(ショート)の原因になります。また、電源コードが刃物類や高熱のもの、油、グリースなどに触れないように注意してください。電源コードが損傷した場合は修理に出してください。

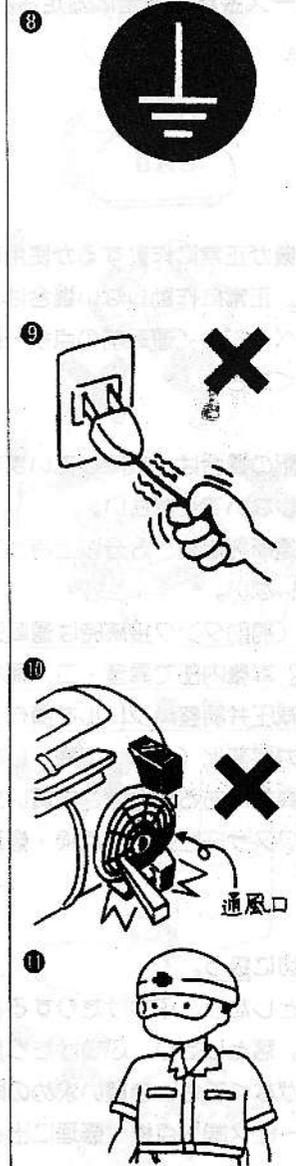
⑩ 本機の通風孔や回転部(ファン部)などに異物を入れない。

感電や故障、事故の原因となります。

⑪ 正しい服装で作業する。

回転部(ファン部)などに巻きこまれないよう、袖口の開いたものや手袋・ネクタイ・ネックレスなどは着用しないでください。

⚠ 警告



⚠ 警告  
安全作業のために

- ⑩本機にエアホースを接続する前に必ずエアホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。

- ⑪本機が正常に作動するか使用前に必ず点検・確認する。正常に作動しない場合は、使用しない。  
14ページの「運転前の点検・確認」に沿って点検してください。

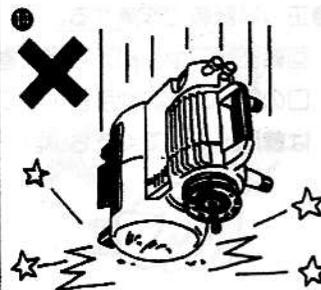
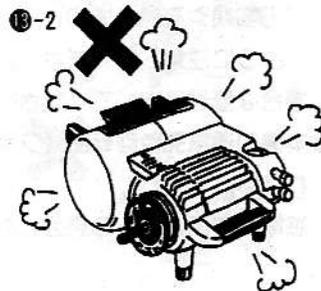
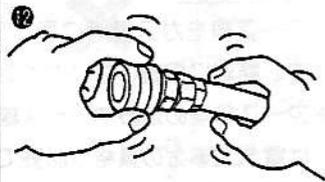
※下記の場合は、故障していますから本機を絶対に使用しないでください。

1. 運転開始後、3分以上待ってもモータが自動停止しない。  
(補助タンク接続時は運転時間が異なります。)
2. 本機内部で異音・エア漏れ音がする。
3. 減圧弁調整ハンドルを操作しても圧力計の表示圧力が変化(上昇・下降)しない。  
異常のある場合は、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

⑫大切に扱う。

落としたり、ぶついたりすると故障の原因となります。落としたり、ぶついたりした場合は、外観上異常がなくても、お買い求めの販売店又は、マックスサービス㈱へ点検・修理に出してください。

⚠ 警告



⚠ 警告  
安全作業のために

- ⑬本機を長時間連続して運転する用途には使用しない。  
釘打機のエア源以外の用途や、長時間連続運転となる用途に使用する場合は、あらかじめ必要性能などを取扱い販売店や弊社担当者に確認してください。

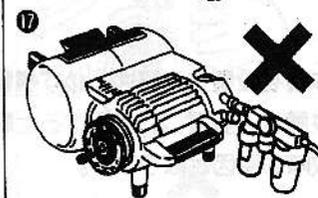
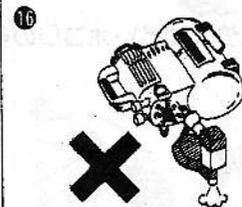
- ⑭補助タンク接続口に直接空気工具を接続することは絶対にしない。

- ⑮コンプレッサのエアチャックに、直接3点エアセット等の重量物を取付けない。  
コンプレッサの振動で本機の故障を招くおそれがあります。

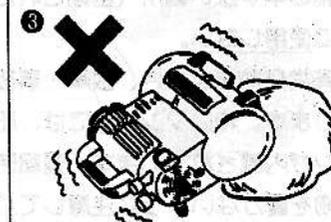
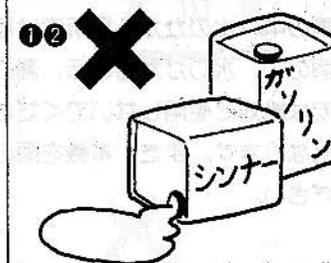
作業中

- ⑯揮発性可燃物のそばで絶対に使用しない。  
ガソリン、シンナー、ガス、塗料、接着剤などのそばでの使用は、引火または爆発の恐れがあるので絶対にしないでください。
- ⑰火気や燃えやすいもののそばでは絶対に使用しない。
- ⑱不安定な場所では絶対に使用しない。  
移動や落下の危険性のある場所では絶対に使用しないでください。

⚠ 警告



⚠ 警告



⚠ 警告  
安全作業のために

④ 高温や直射日光が当たる場所は避け、必ず風通しのよい日陰などで使用する。

⑤ ゴミ（木くずなど）・ホコリの多い場所では使用しない。

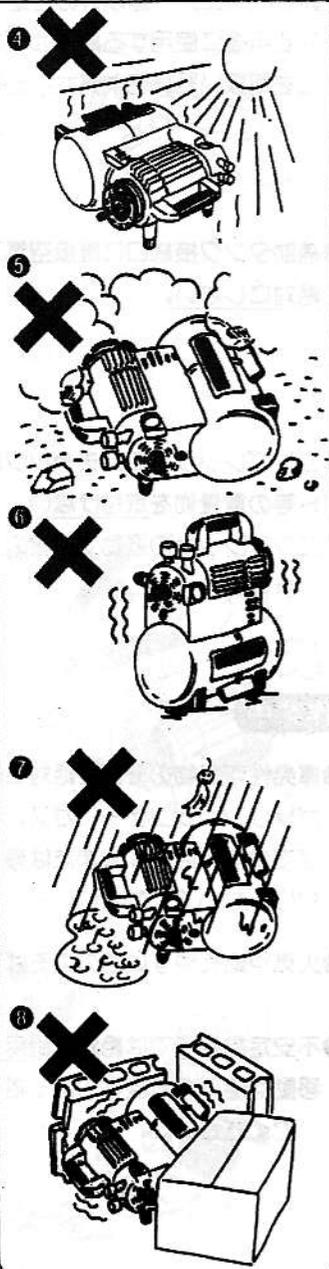
⑥ 本機を設置する際は、必ず横置にする。  
縦置きで設置し、使用すると転倒・破損等の事故や故障の原因となります。

⑦ 雨の中、水のかかる場所では絶対に使用しない。  
雨の中、水のかかる場所、濡れた場所、湿った場所では絶対に使用しないでください。感電事故のもととなります。また、本機を雨の中に放置しないでください。

⑧ 箱の中や狭い場所（密閉された車内など）では絶対に使用しない。

異常発熱をまねき、故障・事故の原因となる事があります。特にタンク部には、圧縮熱を放出するファンが内蔵されています。運転時には周辺にしゃへい物を置かないように注意してください。（AK-715IIIのみ）

## ⚠ 警告



⚠ 警告  
安全作業のために

⑨ 上面部に座ったり、物をのせることは絶対にしない。

⑩ 回転部（ファン部）などには絶対に異物や手を近づけない。

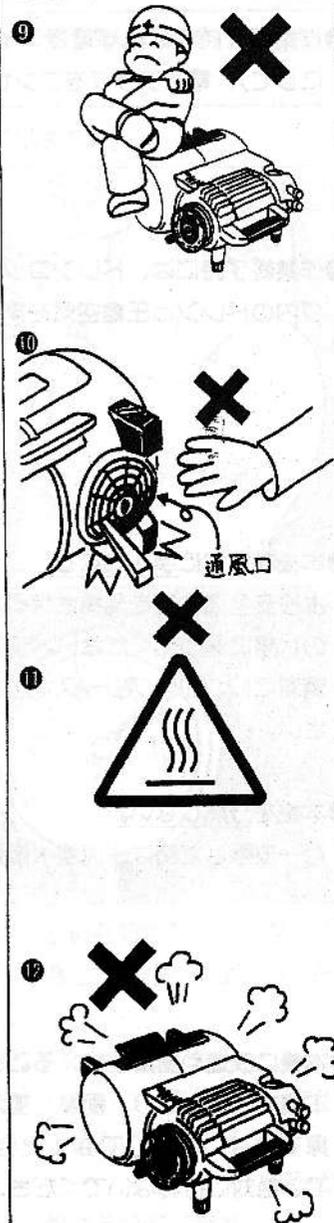
回転部にはさまれたり、巻き込まれたりして怪我をすることがありますので絶対にしないでください。

⑪ 運転時、運転直後のモータ・空気タンク等、金属部は絶対に素手で触らない。  
空気の圧縮熱で高温になっていることがありますので、火傷をする恐れがあります。移動などは、熱が下がってから行なってください。

⑫ 異常を感じたら絶対に使用しない。

機械の調子が悪い時、異常に気づいた時は直ちに電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜き、使用をやめ、点検・修理に出してください。

## ⚠ 警告



# 2

## 警告 安全作業のために

### 作業後

①作業終了時には必ず電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜く。

②作業終了時には、ドレンコックをゆるめ、エアタンク内のドレンと圧縮空気を排出する。

③本機を大切に手入れする。

より安全に性能を発揮させるため、損傷のない最良の状態に保ってください。グリップ部は乾燥させ、清潔にし、油やグリースが付かないようにしてください。

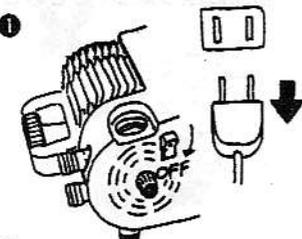
④本機を分解しない。

万一故障した時は、点検・修理に出してください。

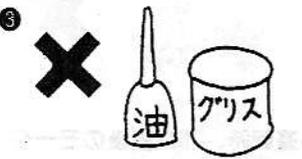
⑤本機に改造や衝撃を加えることは、絶対に行わない。

本機を改造したり、衝撃を加えると本来の性能が発揮できないばかりでなく安全性が損なわれますので、絶対に行わないでください。

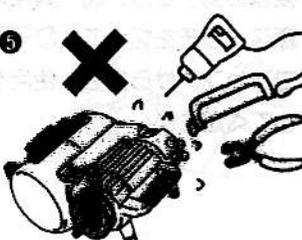
警告

① 

② 

③ 

④ 

⑤ 

# 3

## 安全装置について

### 警告

●作業前には、本機が正しく作動するか確認する。また異常を感じたら絶対に使用しない。

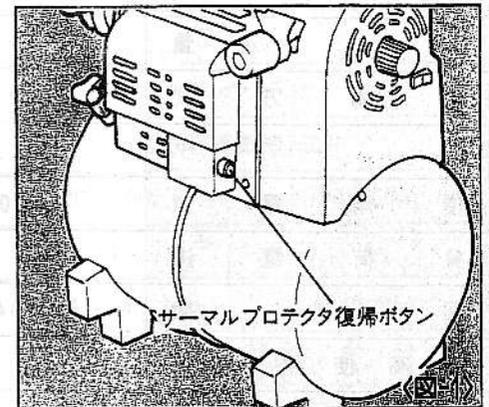
本機には安全を確保するため次のような安全装置がついています。

#### ●サーマルプロテクタ

（モータ焼損防止装置）

不適切な電源や配線方法で本機を使用し、モータ内に異常電流が流れた場合や圧縮機本体に異常がある場合に、電気回路を遮断しモータの運転を停止させ、モータ焼損を防止する装置です。（17ページ参照）

（図-1）



#### ●リリーフバルブ（安全弁）

本機は圧力スイッチによりエアタンク内圧が最高圧力まで達すると自動的にモータの運転を停止します。

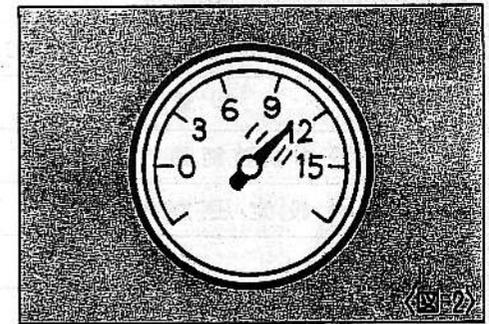
機種名	充電時間	ゲージ圧力	エアタンク内圧力
AK-415PⅢ	約3分	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>
AK-615PⅢ	約2分	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>
AK-715PⅢ	約1分50秒	※約9.0kgf/cm <sup>2</sup>	約12kgf/cm <sup>2</sup>

※AK-715PⅢのエアタンク内最高圧力は12kgf/cm<sup>2</sup>ですが、10kgf/cm<sup>2</sup>以下で使用する釘打機、エアツールの安全性を考慮し、10kgf/cm<sup>2</sup>以上の圧縮空気が取り出せないように減圧弁で調整してあります。そのためエアタンク内最高圧力（12kgf/cm<sup>2</sup>）は、圧力ゲージに表示されません。

圧力スイッチの故障によってエアタンク内圧が異常高圧になった場合、リリーフバルブより音を発しエアタンク内圧を減圧します。その場合は、ただちに本機の使用を中止し、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

圧力スイッチの故障によってエアタンク内圧が異常高圧になった場合、リリーフバルブより音を発しエアタンク内圧を減圧します。その場合は、ただちに本機の使用を中止し、お買い求めの販売店又はマックスサービス㈱に点検・修理に出してください。

（図-2）



※本機のリリーフバルブ（安全弁）は、機体（カバー）内に設けられています。圧力スイッチおよびリリーフバルブ（安全弁）の設定圧力の調整はできません。

# 4 仕様

項目	マ ッ ク ス		エ ア コ ン プ レ ッ サ			
商 品 名	マ ッ ク ス		エ ア コ ン プ レ ッ サ			
商 品 記 号	AK-415PIII (50Hz用)	AK-415PIII (60Hz用)	AK-615PIII (50Hz用)	AK-615PIII (60Hz用)	AK-715PIII (50Hz用)	AK-715PIII (60Hz用)
寸 法	(H)263×(W)400×(L)488mm		(H)263×(W)400×(L)488mm		(H)263×(W)400×(L)498mm	
重 量	20kg		23kg		24kg	
制 御 方 式	圧カスイッチ式		圧カスイッチ式		圧カスイッチ式	
モ ー タ	単相誘導電動機400W		単相誘導電動機550W		単相誘導電動機750W	
使 用 電 源	AC100V[50Hz]	AC100V[60Hz]	AC100V[50Hz]	AC100V[60Hz]	AC100V[50Hz]	AC100V[60Hz]
負 荷 電 流	8.0A	5.2A	8.2A	7.2A	12.0A	10.6A
回 転 数	1420rpm	1710rpm	1420rpm	1710rpm	1440rpm	1740rpm
最 高 使 用 圧 力	9.7kgf/cm <sup>2</sup> (0.95MPa)		9.7kgf/cm <sup>2</sup> (0.95MPa)		9.0kgf/cm <sup>2</sup> (0.88MPa)	
吐 出 量(kg/cm <sup>2</sup> 圧力・1回転時)	40 ℓ /min		60 ℓ /min	65 ℓ /min	80 ℓ /min	85 ℓ /min
気筒径(mm)×行程(mm)×気筒数	60×25×1	60×22×1	60×30×1	60×27×1	60×35×1	60×33×1
空 気 タ ン ク 容 量	14 ℓ		14 ℓ		13 ℓ	
減圧弁の圧力調整範囲	0.5~9.7kgf/cm <sup>2</sup> (0.05~0.95MPa)		0.5~9.7kgf/cm <sup>2</sup> (0.05~0.95MPa)		0.5~9.0kgf/cm <sup>2</sup> (0.05~0.88MPa)	
安全弁の設定圧力	11kgf/cm <sup>2</sup> (1.07MPa)		11kgf/cm <sup>2</sup> (1.07MPa)		14kgf/cm <sup>2</sup> (1.37MPa)	
空 気 取 出 口	エアチャック×2ヶ所		エアチャック×2ヶ所		エアチャック×2ヶ所	
	補助タンク用取出口付(Rc1/4)		補助タンク用取出口付(Rc1/4)		※補助タンク用取出口なし	

※補助タンクはエアチャックに接続してお使いください。

# 5 使用方法

## 運転前の点検・確認

### 警告

- 使用前にボルトナットやネジの緩み、各部部品の欠損がないか点検する。
- 必ず指定電圧で使用する。
- 適正な設置方向で必ず使用する。

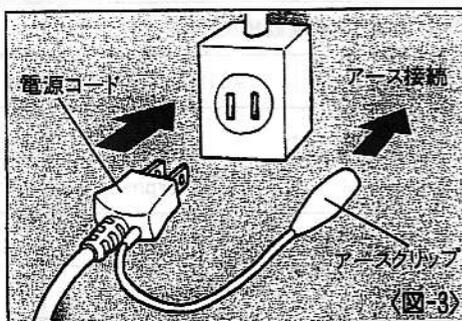
※2ページからの「安全作業のために」の通り正しく使用してください。

※文中の圧力数値については、圧力計の読み取り誤差を含んでいません。

①電源はAC100Vを使用し、本機の電源スイッチを切った（OFFにした）状態でアースクリップを接地（アース）してから電源プラグをコンセントに差込みます。

〈図-3〉

※やむを得ず延長コードを使用する場合は15A以上で有効断面積が2mm<sup>2</sup>以上、長さ30m以内の電線としてください。



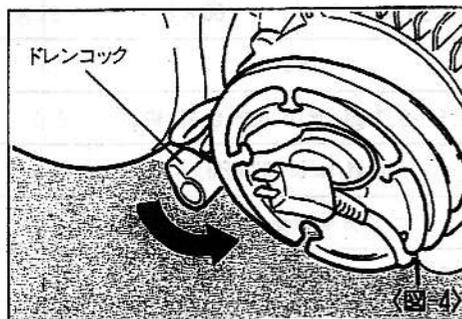
〈図-3〉

②ドレンコックを全開に緩めて（左回し）において、電源スイッチを入れ（ONに）します。

③モータが回転し、ドレンコックから空気が出ていることを確認してください。

④ドレンコックを締めて（右回し）、ドレンコックからエアもれが無いことを確認してください。

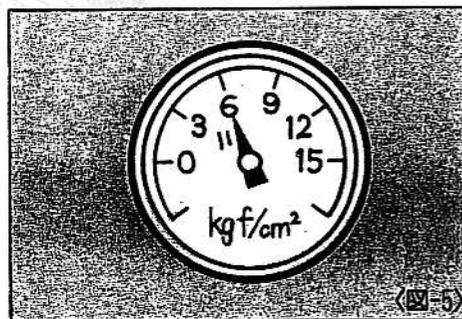
〈図-4〉



〈図-4〉

⑤減圧弁調整ハンドルを、止まるまで右回転させ圧力計の指針が動く（上昇）ことを確認してください。

〈図-5〉



〈図-5〉

⑥タンク内圧力が最高圧まで達すると、圧力スイッチにより自動的に圧縮運転が停止することを確認してください。〈図-6〉

機種名	充電時間	ゲージ圧力	エアタンク内圧力
AK-415PⅢ	約3分	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>
AK-615PⅢ	約2分	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>	約9.7kgf/cm <sup>2</sup>
AK-715PⅢ	約1分50秒	※約9.0kgf/cm <sup>2</sup>	約12kgf/cm <sup>2</sup>

※AK-715PⅢのエアタンク内最高圧力は12kgf/cm<sup>2</sup>ですが、10kgf/cm<sup>2</sup>以下で使用する釘打機、エアツールの安全性を考慮し、10kgf/cm<sup>2</sup>以上の圧縮空気が取り出せないように減圧弁で調整してあります。そのためエアタンク内最高圧力（12kgf/cm<sup>2</sup>）は、圧力ゲージに表示されません。

⑦運転停止後、5分程度待つて、異音・エアもれや再起動運転しないことを確認してください。

⑧ドレンコックを少し緩め（左回し）圧縮空気を排出します。圧力が低下すると、運転が再開することを確認してください。

〈図-7〉

⑨ドレンコックを締めて（右回し）圧縮運転中に電源を切り（OFFにして）運転が停止することを確認してください。

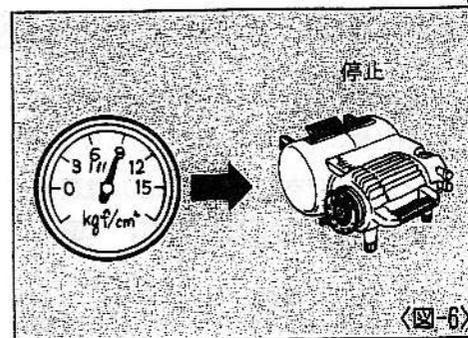
⑩減圧弁調整ハンドルを、左回転させ圧力計の指針が下がる（エアもれ音が発生することがあります。）ことを確認してください。

〈図-8〉

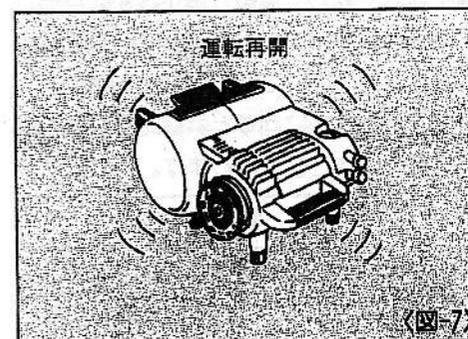
⑪ドレンコックを緩め（左回し）、エアタンク内の圧縮空気とドレンを全て排出してください。

〈図-9〉

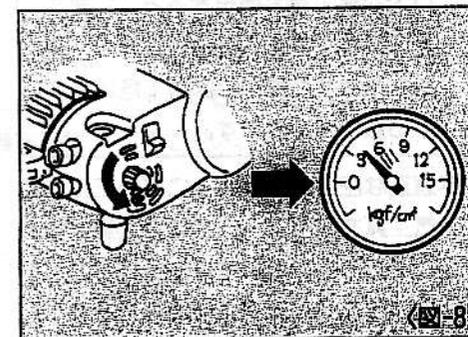
運転前の点検・確認で以上のある場合は、お買い求めの販売店又は、マックスサービスへ点検・修理に出してください。



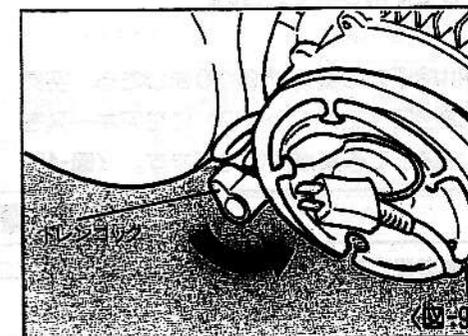
〈図-6〉



〈図-7〉



〈図-8〉

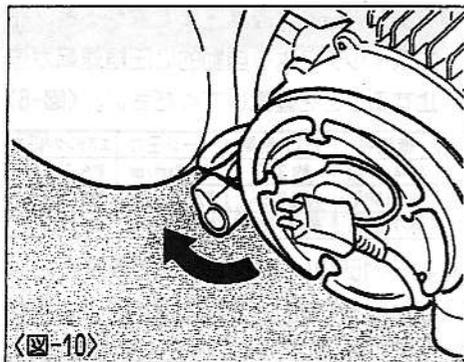


〈図-9〉

## 使用手順

使用する場合は必ず14ページ「運転前の点検・確認」を行なってください。

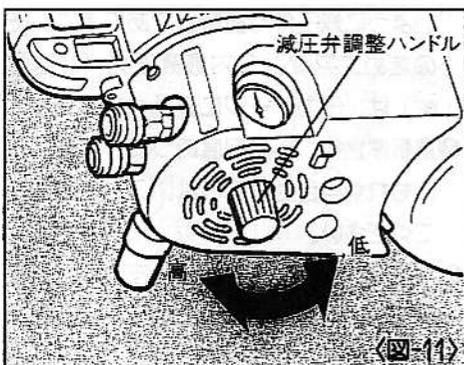
①ドレンコックを締め（右回し）電源スイッチを入れ（ONにします）。〈図-10〉



〈図-10〉

②圧力が上昇して運転が停止しましたら、減圧弁調整ハンドルを回して空気工具の適正な使用圧力に調整してください。

ハンドルを右に回すと供給圧力が高くなり左に回すと低くなります。〈図-11〉

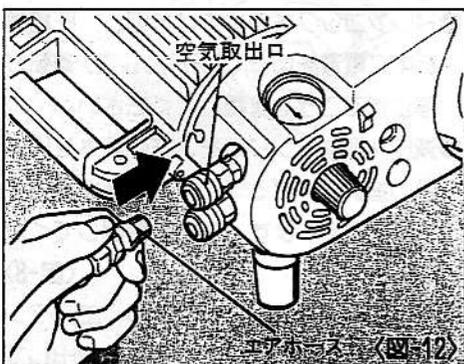


〈図-11〉

### 警告

●空気工具の使用空気圧を必ず守る。  
減圧弁によって供給圧力を調整しないで空気工具を使用すると、空気工具の性能を著しく低下させたり、寿命を早めたり損傷によって危険を生じる恐れがあります。

\*不適正な圧力（必要以上に高い圧力）で空気工具を使用すると空気消費量が増加し、空気工具の使用性能が著しく低下することがあります。必ず適正圧力に調整して使用してください。



〈図-12〉

③供給圧力の調整が終わりましたら、空気取出口（エアチャック）にエアホースを接続して作業を開始できます。〈図-12〉

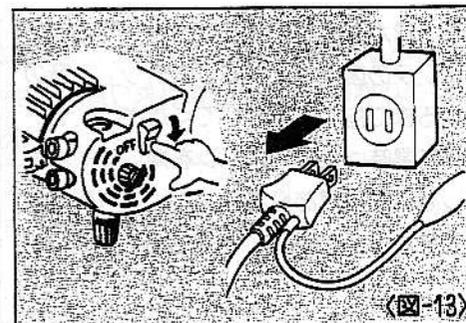
### 警告

●本機にエアホースを接続する前に必ずエアホースとホース金具が完全に固定されていることを確認する。

## 6 サーマルプロテクタについて

運転時に電圧降下が大きかったり、機械内部に異常があったりすると、モータ焼損防止用のサーマルプロテクタが作動してモータが停止することがあります。この場合は、

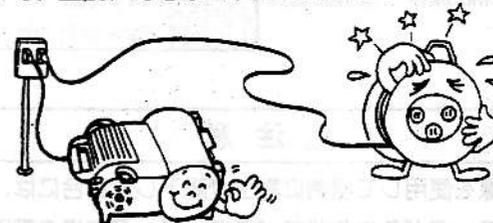
①電源スイッチを切って（OFFにして）、電源プラグをコンセントから抜いてください。〈図-13〉



〈図-13〉

②電源状態が適切か、延長コードが長すぎたり、細すぎないか、又同一電源で他の電動工具等を使用していないかを調べ、その状態であれば延長コードの使用をやめたり、電動工具等の使用をやめます。

\*延長コード使用による電圧降下のトラブルを、未然に防止する為に、なるべく延長コードの接続は避けて、直接、元電源に本機を接続してください。



30mの延長コードを接続し、本機を運転する際の電圧降下予測値（コード断面積別参考値）

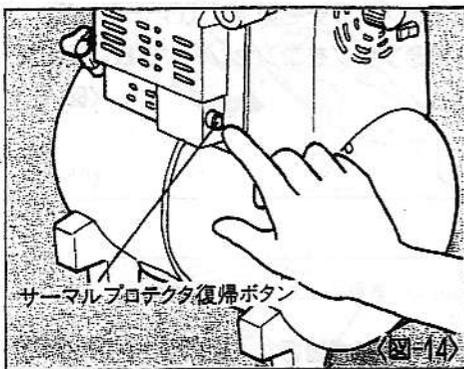
	元電源	太さ1.25mmのコード接続後	太さ2.0mmのコード接続後	太さ3.5mmのコード接続後
AK-415PIII	100V ◎	約93V ○	約96V ○	約97V ○
AK-615PIII	100V ◎	約92V ○	約95V ○	約97V ○
AK-715PIII	100V ◎	約90V △	約94V ○	約96V ○

→元電源で100V未満の時や、同時に他の電動工具を使用した時は、電圧降下がより一層激しくなります。

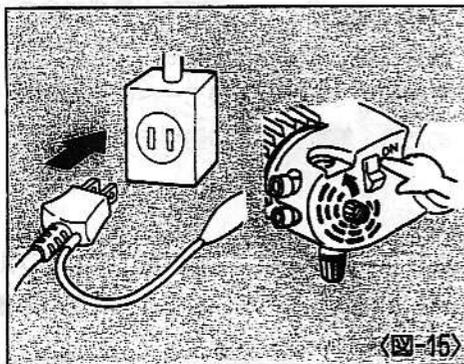
※同一電源で他の電動工具を使用し、総消費電流値が電源ブレーカの電流容量を超える  
と電源ブレーカが作動することがあります。

同一電源で他の電動工具との併用はさけてください。

- ③モータが十分に冷えてからサーマルプロテクタの復帰ボタンを「カチッ」と音のするまで指で強く押してください。(モータ高温時は、復帰ボタンを押しても作動しないことがあります。) (図-14)



- ④電源プラグをコンセントに差込み電源スイッチを入れて(ONにして)運転を再開してください。 (図-15)



- ⑤電源・配線に問題が無いのにサーマルプロテクタが作動する場合は、機械の故障が考えられます。お買い求めの販売店又はマックスサービス欄に点検・修理に出してください。

### ⚠ 注意

- 不適切な電源や配線を使用して極端に電圧が低下した場合には、サーマルプロテクタが動作せずにモータがうなる状態が続き、モータ焼損の原因となります。
- サーマルプロテクタ復帰ボタンを外部から固定したり、改造した場合にはサーマルプロテクタが動作せずにモータがうなる状態が続き、モータ焼損の原因となります。
- やむを得ず巻き取り式延長コードを使用する場合には、延長コードを巻いたまま使用すると熱を持ち、焼損・断線等の原因となります。

## 7 運転中の異常

### ⚠ 警告

- 異常を感じたら絶対に使用しない。  
次のような異常を感じた時は、直ちに電源スイッチを切って(OFFにして)電源プラグをコンセントから抜き、使用をやめ、お買い求めの販売店又は最寄りのマックスサービス欄まで、点検・修理に出してください。

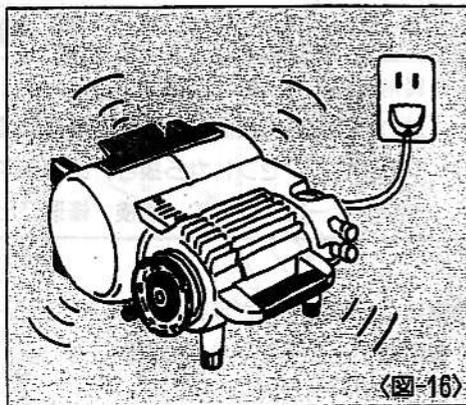
- ①電源、配線に問題が無いのに。(17ページ~18ページ「サーマルプロテクタ」の項参照)
  - 電源スイッチを入れても作動しない。
  - モータがうなる。
  - サーマルプロテクタが作動する。
  - 異常停止ランプがつく。
- ②運転中に異常な音がする。
- ③圧カスイッチが作動せず安全弁が作動し、空気が吹き出す。
- ④空気圧が10kgf/cm<sup>2</sup> (0.98MPa) 以下のときにリリーフバルブ(安全弁)が作動し、空気が吹き出す。
- ⑤空気が漏れている。
- ⑥圧力が上昇しない。
- ⑦金属部に触れるとビリビリする。
- ⑧上記以外でも使用中に異常を感じる。

## 8 その他の留意点

### ① 本機を寒冷地で使用する場合

凍結による作動不良を防止するため。

- ① 本機をあらかじめ暖めてから運転する。
- ② 電源プラグを直接、元電源に接続し暖気運転（ドレンコックを開放したまましばらく運転させる）の後、使用する。止むを得ず延長コードを使用する場合は、上記の措置を行なった上でコード断面積が太く（2mm以上）短いコードを使用してください。〈図-16〉



〈図-16〉

### ② 補助タンクを使用する場合

誤接続による、事故や性能低下を防止するため。

- ① 使用する補助タンクの取扱説明書を必ず読む。
- ② 本機の補助タンク接続口には必ず指定のエアチャックを使用する。  
(AK-415PⅢ、AK-615PⅢのみ)  
マックス純正補助タンクには、付属品として接続用エアチャックが同梱されています。

※AK-715PⅢは補助タンク接続口がついておりません。補助タンクをコンプレッサに接続する場合は、本体に装備されているエアチャックに接続してお使いください。

- ③ 本機と補助タンクをつなぐエアホース継手の脱着は、両機のエアタンク内に圧縮空気が充填されていないことを確認して行う。

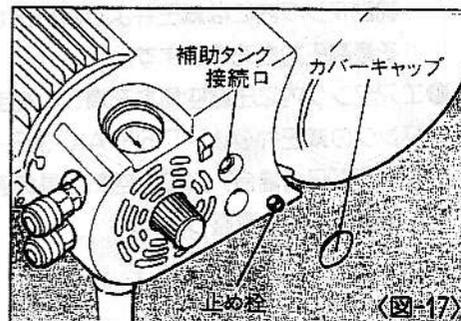
## 9 補助タンクの接続方法

### ⚠ 警告

- 補助タンク使用時は、必ず補助タンクの取扱説明書を読む。

[本機の補助タンク接続口を使用する場合]  
(AK-415PⅢ、AK-615PⅢの場合)

- ① 本機の補助タンク接続口の止め栓をはずします。 〈図-17〉

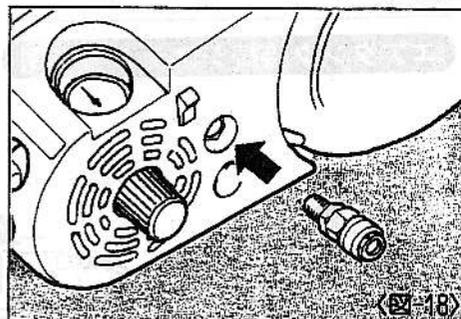


〈図-17〉

### ⚠ 警告

- エアタンク内の圧縮空気が全て排出されていることを必ず確認してから止め栓をはずす。

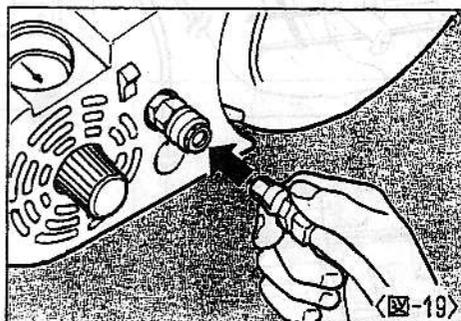
- ② 指定のエアチャック（ねじ仕様R1/4：PT1/4）を取りつけます。 〈図-18〉  
→マックス純正補助タンクには、付属品として同梱されています。



〈図-18〉

- ③ 補助タンク内へエア供給するためのエアホースエアプラグを取り付けたエアチャックに接続します。 〈図-19〉

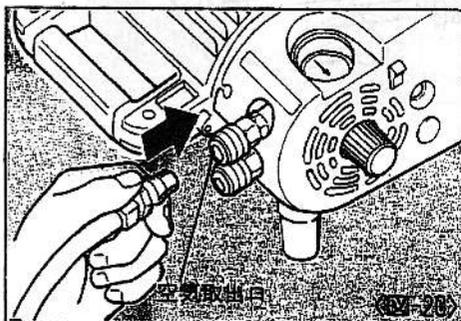
- ④ エアタンク内に圧縮空気を充填します。  
※使用する空気工具の適正な使用圧力に減圧弁にて調整してから使用してください。



〈図-19〉

[本機の空気取出口(減圧弁後)を使用する場合]  
(AK-715PⅢの場合)

- ① 補助タンク内へエア供給するためのエアホースエアプラグを、本機の空気取出口エアチャックに接続します。 〈図-20〉

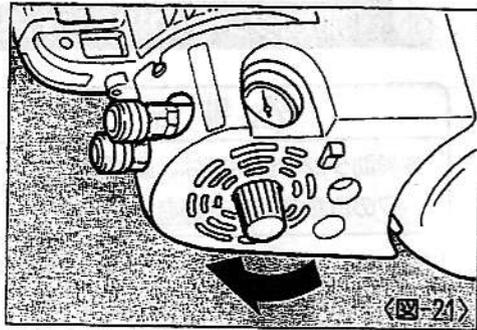


〈図-20〉

②本機の減圧弁調整ハンドルを右へいっぱい回してください。〈図-21〉

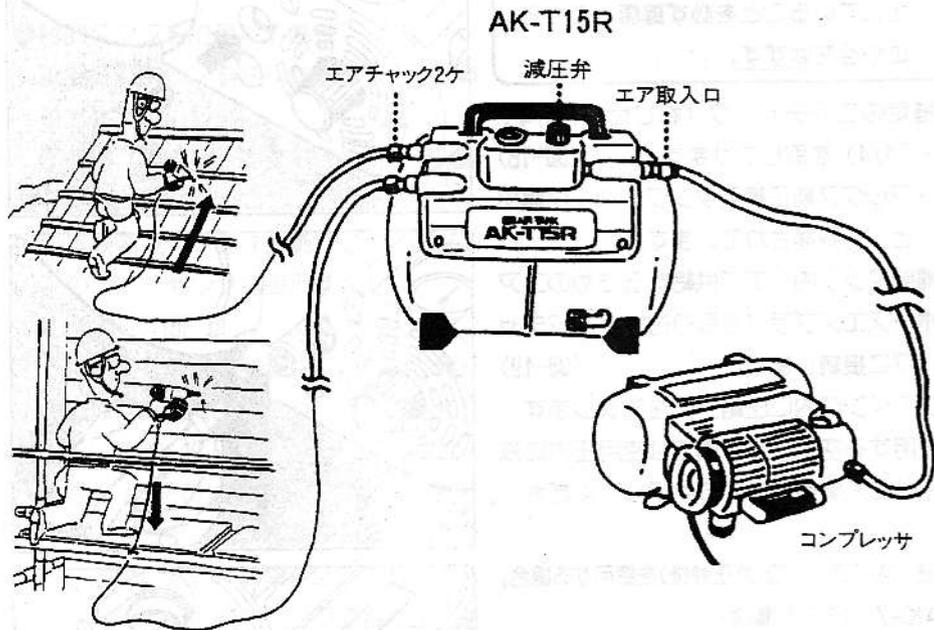
→補助タンク内には減圧弁より取り出せる最高圧力を充填します。

③エアタンク内に圧縮空気を充填し、補助タンクの減圧弁(AK-T15R・AK-30R・AK-T40Rの場合)にて、空気工具の適正な使用圧力に調整します。



〈図-21〉

### エアタンク接続システム参考例

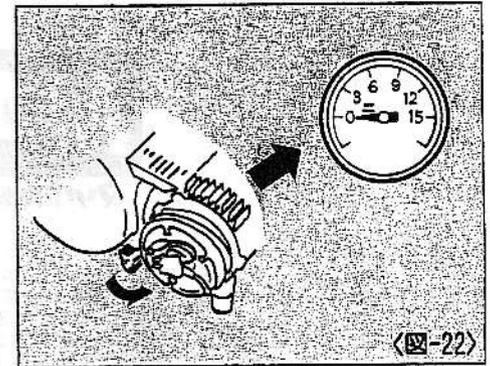


## 10 性能を維持するために

①本機の水抜きをする。

作業終了時は、ドレンコックを開放し、エアタンク内の圧縮空気とドレン(水)を圧力計の針が0を指すまで全部抜いてください。〈図-22〉

※水抜きを行わないとエアタンク内に錆が発生し、故障の原因となります。



〈図-22〉

②定期的に点検する。

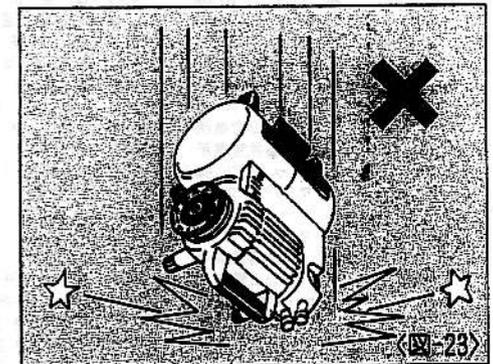
本機の性能を維持する為に清掃、点検を定期的に行なってください。点検はお買い求めの販売店又はマックスサービス株式会社にお申しつけください。

※コンプレッサの清掃には別売りのエアダスタが便利です。エアダスタは、お近くのマックス製品取り扱い店でお買い求めください。

③本機を大切に扱う。

落としたり、ぶついたり、叩いたりすると変形・亀裂や破損を生じる場合があります。危険ですから絶対に落としたり、ぶついたり、叩いたりしないでください。

〈図-23〉



〈図-23〉

④使用毎に必ず点検する。

2ページの「安全作業のために」の内容に沿って点検・確認を行なってください。